

江戸東京研究センター「テクノロジーとアート」プロジェクトチーム研究会

東京(Tokei) — 東京(Tokyo) 原風景の光景

中澤和人『長屋迷路』より

東京湾岸の葦原、セルフビルドの小屋、向島の路地、房総の素掘りトンネル……。中里和人がカメラを向けるのは都市やその周辺に穿たれた隙間、淀み、エアポケット、0地点であり、私たちが目を向けないばかりか、まず行ったことがない場所だ。けれどもそうした無名の場所は彼に撮られるや、夢幻めいた『原風景』として魂に触れる普遍性を帯びる。写真から人が消え、闇が広がるにつれ、むしろモノがほのかに発光し、濃密に肌理や気配が立ちあがる。隙間こそ生に満ちた時空なのだ。『湾岸原野』(1991)から『東京 TŌKEI』(2006)をへて最新写真集『URASHIMA』にいたる歩み——都市の均質化を逃れて神出鬼没する隙間のハンティング——を、写真家が『東京—東京』に沿って多くの作品を紹介しながら出身校・法政大学にてふりかえる、またとないイベント！

なかざと かつひと

【講演者】 中里 和人

写真家。1956年三重県生まれ。1979年法政大学文学部地理学科卒業。元東京造形大学教授

写真集：『湾岸原野』(1991), 『小屋の肖像』(2000), 『キリコの町』(2002), 『路地』(2004), 『R』(2006), 『東京TŌKEI』(2006), 『4つの町』(2007), 『ULTRA』(2009), 『グリム』(2011), 『龍宮』(2013), 『lux water tunnel land tunnel』(2015), 『Night in Earth』(2018), 『URASHIMA』(2022)など

【コメンテーター】

米家 志乃布

(法政大学文学部教授, 江戸東京研究センター研究員)

山本 真鳥

(法政大学名誉教授, 江戸東京研究センター客員研究員)

【司会】

岡村 民夫

(法政大学国際文化学部教授, 江戸東京研究センター「テクノロジーとアート」プロジェクトリーダー)

2022年5月7日(土)
14時~16時

法政大学市ヶ谷キャンパス
富士見ゲートG201教室
(オンラインでの参加もできます)

参加無料：事前申込が必要です

開催方法が『オンラインのみ』に変更になる可能性がありますので必ず事前申込をお願いいたします。



事前申込はこちら

<https://forms.gle/2hYBuDVkA49mkX6z5>